



浦子内組



新町組



下町組



茶屋場組



葛巻神楽



七ツ物



さんさ踊り



パレードの先頭を歩く実行委員会の皆さん



まちなか賑わい市の様子



J R 葛巻駅前であつりを観覧する多くの人々

9月24日と25日の2日間、くずまき秋まつりが3年ぶりに開催されました。初日はあいにくの雨でしたが2日目は快晴。茶屋場、下町、新町、浦子内の山車が町内を華やかに練り歩き、「ヤーラーレ」と山車を引く子どもたちの元気な声がまちなかに響き渡りました。また、葛巻神楽、七ツ物、さんさ踊りの郷土芸能3団体が舞を披露し、コロナ禍でも感染症対策

を講じ、大切に守り続けてきた地域の伝統文化が、再び輝きを放ちました。恒例の夜の「踊りの競演」は見送られました。初日はJ R 葛巻駅構内で商工会主催の「賑わい市」が開催され、屋台やステージイベントがまつりを盛り上げました。下町組で山車の小太鼓を叩いた寺畑実桜さん（葛巻中3年）は「ほかの山車とすれ違ふとき、リズムがつかれない

よう頑張りました。小太鼓ができる最後の年なので、みんなと楽しめて良かった」と話していました。茶屋場組（幹事組）の丹内勉組長は「不安もありましたが、4つの山車組が協力し知恵を出し合い、無事に運行できました。地域の皆様のご協力に心から感謝し、次につなげていきたい」と話し、3年ぶりの開催に感慨深い様子を見せていました。

葛巻八幡宮例大祭 くずまき秋まつり